

平成 22 年度 環境装置等に関する動向調査研究

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

我が国は、温室効果ガスの排出量を京都議定書における第一約束期間（2008 年～2012 年）において、基準年（1990 年）比で 6%削減することを義務付けられており、2010 年はこの第一約束期間における中間地点にあたる。また 2010 年 12 月にはメキシコのカンクンで COP16 が開催され、ポスト京都議定書について議論される等、世界各国の環境問題への意識はますます高まっている。

特に欧州ではポスト京都議定書の議論において高い目標を提示し、環境問題改善へのアピールを行い、存在感を強めている。また、欧州では温室効果ガス削減・3R・再生可能エネルギーの普及等の活動を推進し、その環境技術は注目されている。近年では、非化石燃料資源から得られるエネルギーである再生可能エネルギーの導入については各国が目標を設定し、実現に向けた技術研究や導入に向けたエネルギー政策を推進している。これら最新の環境技術及び政策の情報は、持続的発展可能な社会を目指す我が国にとり有力な情報である。

また、この欧州をけん引する EU は環境問題改善に向けて 1973 年に環境行動計画の策定を開始した。以後、第 2～5 次環境行動計画が策定され、現在は第 6 次環境行動計画（2002～2012 年）の期間にあたり、重点分野として「気候変動」、「自然と生物多様性」、「環境と健康」、「自然資源と廃棄物」の 4 分野が挙げられている。これに従い EU は再生可能エネルギー指令、EuP 指令、WEEE・RoHS 指令、REACH 規制等の EU 指令を定め、加盟国に目的の達成を求め、目標達成に向けた技術開発も進められている。このような EU 指令や技術に関する動向は EU と深い繋がりを持つわが国に多大な影響を与えるものであり、広く情報提供を行うことは極めて重要である。また、EU の環境政策は先進事例として広く世界に紹介され、中国版 RoHS のように EU 外においてもこれらを参考に法整備等を行うケースがあり、早い段階での情報収集と対応が望まれている。

さらに近年 EU の拡大により欧州は経済的な影響力を拡張し続けてきた。そして中東、北アフリカまでも巻き込み、巨大な経済圏としてこれら地域への関心が高まっている。また、その巨大経済圏及び世界経済に影響を及ぼす恐れのあるこれら国、地域の抱える財政リスクや政治リスクをいち早く見極めることも望まれており、幅広い地域における情報収集の必要性が高まっている。

以上の理由から、本事業は欧州・中東・北アフリカ諸国における最新情報を入手し、広く情報提供を行うことを目的とし実施した。

(2) 実施内容・成果

オーストリア及びその他の西欧諸国、東欧諸国並びに中近東諸国、北アフリカ諸国の地域を対象として環境装置産業等に関する動向調査、各種情報収集、PR等の諸活動を行った。

地理的にも歴史的にも中東欧諸国の中心のゲートウェイとされるウィーンに駐在員を置き、広い視野を持って諸活動を行ったことで最新かつ確かな情報を入手することができた。

入手した情報は当月毎に報告書に取り纏めJETRO及び工業会会員、政府機関、現地関連機関等に広く公表した。下記に主な内容を記す。

実施月	レポート（海外情報）の主な内容
4月	<ul style="list-style-type: none">○ オーストリアのエネルギー産業における政策（その4）○ バイオマス燃料の熱利用高効率化の現状（その5）○ AWO（オーストリア貿易省）フォーラム参加報告○ Pollutec Horizons 2009 参加報告○ 欧州環境情報
5月	<ul style="list-style-type: none">○ オーストリアのエネルギー産業における政策（その5）○ バイオマス燃料の熱利用高効率化の現状（その6）○ ドイツごみ焼却施設の現状○ ロシアの廃棄物事情○ 欧州環境情報
6月	<ul style="list-style-type: none">○ 欧州における電気自動車の現状（その1）○ 南東欧の風力発電の現状（その1）○ World Ethanol 2009 参加報告（その1）○ カザフスタン共和国の環境事情○ 欧州環境情報
7月	<ul style="list-style-type: none">○ 欧州における電気自動車の現状（その2）○ World Ethanol 2009 参加報告（その2）○ 南東欧の風力発電の現状（その2）○ ウィーン市 Pfaffenu ぐみ焼却処理施設視察報告○ 欧州環境情報
8月	<ul style="list-style-type: none">○ 欧州における電気自動車の現状（その3）○ 南東欧の風力発電の現状（その3）○ World Ethanol 2009 参加報告（その3）○ オーストリアのバイオマス行動計画について○ 欧州環境情報
9月	<ul style="list-style-type: none">○ 欧州における電気自動車の現状（その4）○ 欧州における洋上風力発電の現状（その1）

	<ul style="list-style-type: none"> ○ カザフスタンの水事情について（ユーラシア水センターの紹介） ○ Future Source 出張報告 ○ 欧州環境情報
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 欧州における電気自動車の現状（その5） ○ 欧州における洋上風力発電の現状（その2） ○ 中東欧における太陽光発電の現状（その1） ○ 欧州環境情報
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 欧州における化学政策の現状（その1） ○ 欧州における洋上風力発電の現状（その3） ○ 中東欧における太陽光発電の現状（その2） ○ IFAT Entsorga2010 出張報告 ○ 欧州環境情報
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 欧州における化学政策の現状（その2） ○ 中東欧における太陽光発電の現状（その3） ○ 欧州における洋上風力発電の現状（その4） ○ 欧州でのバイオプラスチック、バイオポリマーへの取組（その1） ○ 欧州環境情報
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 欧州における化学政策の現状（その3） ○ ドイツにおける廃棄物処理政策の現状（その1） ○ 中東欧における太陽光発電の現状（その4） ○ 欧州でのバイオプラスチック、バイオポリマーへの取組（その2） ○ 欧州環境情報
2月	<ul style="list-style-type: none"> バルト諸国のエネルギー事情（その1） ○ ドイツにおける廃棄物処理政策の現状（その2） ○ 欧州でのバイオプラスチック、バイオポリマーへの取組（その3） ○ 欧州環境情報
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ バルト諸国のエネルギー事情（その2） ○ ドイツにおける廃棄物処理製作の現状（その3） ○ 欧州でのバイオプラスチック、バイオポリマーへの取組（その4） ○ Pollutec Horizons 2010 出張報告 ○ 欧州環境情報

2. 予想される事業実施効果

オーストリア及びその他の西欧諸国、東欧諸国並びに中近東諸国、北アフリカ諸国の地域を対象として環境装置産業の動向調査、各種情報収集、PR等の諸活動を行い、その情

報を広く公表したことによって我が国産業機械産業の更なる技術発展と円滑な投資促進が
図られる。